

「中津小学校の大敷ばやし伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立中津小学校

2 学年・人数

3年生から6年生（計17人）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

令和元年11月19日（火）（本校体育館）

（2）発表の日時・場所

特になし

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

（1）名称

大敷ばやし（おおしきばやし）

（2）由来

甑島で行われている定置網（大敷網）のブリ漁大敷網漁は、時代とともに機械化され、人力による漁は、完全に忘れ去られ、歌も聞かれなくなり、消え失せてしまった。この唄ばやし（作業唄）の生まれは、甑島であるといわれており、大隅・宮崎方面でも唄われているが、いずれも甑島の漁師から教えられたと言われている。

（3）構成等

二艘の舷側を表した板に網をかけ、15余人のねじり鉢巻き姿をした男性の乗子が一列にならび、「ヘンーヨイショウ、ヘンーヨイショウ」と声を揃え、全員が網を引く動作を同一になるように行う。女性は、法被を羽織り、調子や歌詞に合わせて勇壮な海の男、魚と戦う様子を踊る。

この作業唄は、しりとり式に唄われ、いつまでも続くように唄われている。

5 保存会や地域との連携の具体

郷土芸能として、平良婦人会が上甑村文化祭で毎年発表し、保存会が結成され、今日に至っている。平良芸能保存会は、上甑町平良自治会の有志の集まりで、例年行われているふるさと総合文化祭で発表している。

本校の学習発表会を地域のふるさと総合文化祭と共催することで、児童の目に触れるきっかけとなり、地域の伝統芸能であるこの踊りを、ふるさと・コミュニケーション科の郷土を知る学習で児童が学ぶ機会を得た。平良芸能保存会の方々の協力のもと、本校での伝承活動へとつながった。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

自治会長に相談し、芸能保存会の方々の協力を得て、実施の運びとなった。これまでも、学校行事や地域行事でお世話になった方々だったこともあり、打合せもスムーズに進み、子供たちも見たことのある踊りだったことから、すぐ

に活動に入ることができた。実際の大道具は、使わなかったものの、曲や小道具、所作を学ぶことから始めた。

今後継続して取り組んでいけるよう、学校応援団の登録もお願いすることができた。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

始めに見たときは、難しそうだなと思いましたが、優しく丁寧に教えてもらって、終わるときには踊ることができました。家に帰っても大敷ばやしの歌を歌っていました。 【3年生児童】

初めて踊りましたが、はんや隊で踊っていたので、踊りの動きをすぐに身に付けることができました。漁師の力強さや船の上での動きをイメージして踊るようにしました。今度は、みんなの前で踊ってみたいです。 【5年生児童】

甕島の海をイメージしたこの踊りは、力強い漁師の動きと仲間と息を合わせることで、勇壮な踊りになります。今回、中津小学校から声をかけてもらい、子供たちと一緒に踊れて私たちも元気をもらいました。 【保存会】

これまで、子供たちと取り組んでみたいと思っていたこの伝統芸能の伝承を実現することができ、うれしい。子供たちはもちろん、地域の方々にも快諾していただいて実施できたので、今後継承活動を続けていきたい。 【教職員】